

平成11年度第4回生物物理運営委員会議事録

日時：1999年7月3日（土）13：30～18：00

場所：浜名湖かんざんじ荘会議室

出席者：松本会長、郷次期会長、七田・川戸両副会長、桐野編集実行委員長、新田北海道支部長、太和田九州支部長、鈴木東北支部長、市川平成11年年会実行委員長、木寺、桑島、栗原、田之倉、中村、八田、藤吉、由良各委員、永山会員、林会長室秘書、永田学会事務室秘書、河合

報告事項

1. 生物物理若手の会夏の学校援助金について（松本）

- ・若手の会会長成田哲博氏より本年の夏の学校の運営資金として30万円の依頼があり、4月12日に Email による運営委員会により援助を決定、5月18日に送金された事が報告された。
- ・夏の学校終了後に報告書提出を依頼済みであり、会誌に掲載することが確認された。

2. ICBP2001 準備金送金報告（松本）

- ・2001年7月29日から8月3日、第4回生物物理学国際会議があり、埼玉大学伏見氏が中心に企画されている。
- ・すでに運営委員会で承認を得ている50万円の会議援助について、5月6日に送金済みである事が報告された。

3. 第13回国際生物物理学会議若手参加援助について（松本）資料：報告3・
上記会議に参加する若手から、6名の応募があり、うち IUPAB の援助が決定している2名を除く4名について、会長および副会長による審査を行い、その結果4名に参加登録料として2万円+旅費13万円の合計15万円を援助した事と、援助を受けた若手は帰国後に報告書の提出を義務にした事が報告された。

4. 賞・助成金選考委員会報告（川戸）資料：報告4

- ・ノバルティス科学振興財団海外学会出席助成に本学会からの候補者として寺田聡会員を推薦した。
- ・本学会から第40回藤原賞候補者として推薦した柳田敏雄会員は財団選考の結果、否であった事が報告された。

5. 理学データネットワーク推進ワーキンググループ第1回会議報告 および

6. 理学ネットワーク推進小委員会（第1回）報告

（中村） 資料：報5、報6、資料3

- ・学術会議において日本のデータベース・ネットワークの整備の遅れを改善しようという動きがあり、小委員会を作ることになったことが資料3にもとづき報告された。
- ・学術会議第四部においてデータベース・ネットワークの整備の推進を提言することが当面の目的である。学術会議からの提言によって運営用資金、技官の獲得等の問題を解決していくことを考えている。
- ・研連委員長である郷信広氏から中村氏が推薦されて委員会に出席している。なお、委員会出席にともなう旅費は学会から支払われている。
- ・永山氏より国際的なデータベース機構との関連について質問があり、中村氏よりそのことも考慮されていること、特に日本のデータベースただ乗り論に対処していくことが回答された。

7 平成11年度年会開催準備状況について

（市川） 資料：当日配布

- ・680件の応募発表があり、最終的には700ぐらいになること、および海外からの発表申し込みの問合せがあったことが報告された。
- ・会場（理研および和光市）の予約とバスの手配は完了していることが報告された。
- ・OHP、スクリーン等の機材の予約が完了していることが報告された。
- ・公募型オーラルセッションは応募が多くなっても理研の部屋を使うことができるので問題はないことが報告された。
- ・懇親会はイトーヨーカドーおよび展示会参加企業に手伝ってもらうことが報告された。
- ・寄付金は8月に200万円を目標に集めることが報告された。
- ・託児室の利用予定者は1人のみであることが報告された。
- ・学会申し込みの際のキーワードに問題があったことが指摘された。水のグループを含む3件の問合せがあったことが報告された。また郷通子氏より、蛋白工学、ゲノム情報、進化のキーワードがないために研究室からの発表を希望する分野がなくなっていると指摘された。キーワードの作成に関する謝罪文がWEBに掲載されていることが市川氏より報告された。郷通子氏より年会のキーワードは学会の顔とも言えるので、年会実行委員会でなく運営委員会で決める必要があったこと、およびマイナーな分野でも発表できるのが生物物理学会の包容力であることが指摘された。年会のキーワードの問題は1998年度の九州における年会からの問題であることが太和田氏より指摘された。桑島氏・永山氏より分

野別専門委員会での話し合いが必要であることが指摘され、分野別専門委員会で討議することになった（具体的な事項は未定）。

8 平成11年度東北支部活動報告 (鈴木)

・東北支部において6月18日開催された東北支部総会にあわせてミニシンポを開催し、80名の参加があった事が報告された。中村氏（ミニシンポの講演者のひとり）が、支部活動が活発に行われているとコメントした。

9. 科研費委員選挙公告変更について (八田)

・4月の運営委員会において、選挙公告の承認後、学術会議から科研費審査委員の増加の通達があり、選挙公告の変更を行った事の報告があった。変更の内容（1.候補者32名の選出予定を60名の選出、2.正会員による選挙締切日を早める、3.二段審査委員における今回の増員については分子生物学会に依頼する）については Email による臨時の運営委員会で承認済み。

10. 平成12年・13年度委員候補者および平成12年度科研費委員候補者選挙結果報告 (八田) 資料：報10

4月19日に開票の運営委員による特に推薦する委員候補者3名と推薦する委員候補者50名、および委員による科研費第一段審査委員候補者16名の開票結果が配布資料にもとづき報告された。委員候補者における無効票11票は被選挙権のない人への投票であったこと、科研費一段審査委員候補者においては、得票数にしたがいリストを作成し、うち被選挙権のない人をリストから除いたことがあわせて報告された。

11. 平成12年・13年度委員および平成12年度科研費委員候補者選挙結果 (八田) 資料：報11

・正会員による平成12年・13年度委員選挙開票結果の報告が配布の資料にもとづいて行われた。委員25人のうち22人までは票数順で決まったが、残り3席は4人が同票であったため選挙管理委員長立ち会いのもと抽選で決定した。

・科研費一段審査委員候補者15人について郷通子次期会長により、各候補者に確認中であり、現在14人までの候補者リストができている。7月5日（月）には15人全員のリストが揃う予定であり、その後会長、次期会長、副会長による合議を経て学術振興会に推薦が行われることが郷通子氏より報告された。

・川戸氏より科研費委員の倍増にも関わらず、同一機関から候補者を出せないルールは残っているのかという質問が出された。郷通子氏が学術会議に問い合わせたところ、このルールは残っているという回答を得ている。

1 2. 生物物理学研連委員会（5月17日）報告（郷通）議事録（案）配布
・配付の議事録（案）をもとに説明がなされた。

1 3. 会誌38-6再販負担金について（松本） 資料：報13
・会誌38-6の再版費用について生物物理学会が25%負担した事について、再度リアライズ社に間違いがあったら負債を学会に返却することがリアライズ社と口頭で約束されている事の報告があり、リアライズ社からのレポートが配布された。レポートに対して、桐野編集実行委員長および藤吉委員から問題点が指摘され、桐野編集実行委員長と藤吉委員がリアライズ社からのレポートに加筆して、リアライズ社に再提出を要請することになった。また今回のミスの詳細に報告を依頼する事となった。

1 4. 研究連絡委員会と関連学協会との懇談会報告（永山） 資料：報14
・学術会議のあり方が大きく変わろうとしていることが報告された。具体的には学術会議が2001年に総理府を離れ新設の総務省傘下になることが決定されているが、学術会議としては内閣府直属にすべきだと反発していること、および細分化されている学問分野の間で相互乗り入れが起ころうとしていることが報告された。永山氏より上記のことを会員に知らせるべきであることが報告された。
・科研費審査委員の推薦方法について議論がなされたことが報告された。生物物理研連には各関連学協会から推薦を受けて18人の科研費審査委員候補を選び学術振興会へ推薦する。18人の候補者から12人を選ぶのは学術振興会の役割となる。情勢が大きく変化している現在大切なことは生物物理学会から他の学会との協調関係をどのようにしていくべきかを発議すること、および物理研連と互いに審査委員候補を推薦しあう等のクロスオーバーが必要であることが提案された。

1 5. 科研費委員の増加にともなう諸情勢について（郷通）
・10、11、および14で報告されたように科研費委員の増加があった。
・科研費委員に増加にともない、選挙広告の変更がEmailによる運営委員承諾のもとで行われた。

16. 規則・ルール集の作成について (郷通)

・運営委員会で審議され決定したこと、選挙のルール、および賞・助成の推薦方法等が運営委員や委員のあいだであいまいにされていることが報告され、それらをまとめたルール集を作成したことが報告された。今後はより充実させて委員に配布する。

議題

1. 平成12年度年会開催準備状況について (鈴木) 資料：議1

- ・4月28日に生協と準備委員会との間で話しあいがあったことが報告された。
- ・懇親会会場の大きさに問題があり、複数の部屋を利用することが考えられている。
- ・年会当日のアルバイトは実行委員会で雇うことになった。
- ・年会における発表分類のたたき台を次回運営委員会に持ってくることを報告された。
- ・生協との話し合いにおいてロゴマークがないのかと質問されたことが報告され、5万円の賞金付きで募集広告を会誌掲載することが承認された。

2. 日本学術会議18期会員推薦人について (松本)

- ・物理学研連会員候補者として郷信広氏を伏見氏が推薦人として推薦することが承認された。
- ・前回、堀田氏を郷通子氏が推薦人として分子生物研連に推薦したことが報告され、この必要性が松本会長より問われたが、郷次期会長より必要性が指摘され、Emailにより会員候補者および推薦人をきめることが承認された。

3. 平成13年度年会候補地について (松本) 資料：議3

- ・運営委員によるアンケートの結果、大阪大学が圧倒的に多いことが報告され、また松本会長より柳田敏雄氏(阪大・医)にすでに打診済みで、前向きに検討いただけるとの返答をもらっており、以上の事から大阪大学を候補地とすることが承認された。

4. 会誌オンライン化について (桐野) 資料：議4

会誌「生物物理」のオンライン化の決定が提案され、了承された。

- ・開始に向けて科学技術振興事業団と2度打ち合わせを行ったこと、および7月の後半から体験版が使用できることが報告された。
- ・また開始により広告もオンライン化できることから会誌広告獲得のポイントとして宣伝で

きる事が報告された。

- ・電子ジャーナルを見ることが可能な集団をどう設定するかが問題であることが指摘され、会誌の目次と英文 abstract は誰でも見ることが可能として、全文は冊子体を購入している人が見ることが可能とすることで承認された。

5. 委員の追加 (郷通)

- ・今回の学会委員の選挙結果において、女性がいなく、および若手がほとんどいないことが指摘された。

- ・学会細則 18 条にしたがい、郷通子次期会長より名古屋大学理学研究科の倭剛久氏および名古屋大学工学研究科の白井剛氏の 2 名を追加することが提案され、承認された。

6. 賞・助成金推薦委員会規約改定 (郷通) 資料：議 6

- ・規約の 2 に問題があることが指摘され、「委員は次期会長および運営委員とする。」との変更の提案があり、了承された。次期会長が運営委員でない場合があるためである。

7. 賞・助成金推薦委員会顧問 (2 年任期) の候補 (郷通) 資料：議 7

顧問の選出方法について審議された。

- ・顧問の先生方が同時に任期切れにならずに、オーバーラップが必要であることから、現賞・助成金推薦委員会顧問の方々へ、川戸副会長より (1) 平成 12・13 年度も引き続きお引き受け頂けるか、(2) 現在審査員を務めている財団 (資料：議 7) に変更事項はあるかの 2 点を打診すること、および新たな顧問候補者への打診もすることが決まった。

8. 学術会議 50 周年記念シンポジウム (郷通)

- ・生物物理学研連・分子生物学研連・生化学研連の 3 研連合同で学術会議 50 周年記念シンポジウムを行うことが報告された。「ゲノム科学」がキーワードにおかれている。生物物理学会からのコンタクトパーソンは郷通子次期会長になったことが報告された (報告 12 を参照)。

- ・生物物理学研連への提案として西川建氏 (遺伝研：ゲノムの機能と構造予測：現状と展望 (仮)) と郷通子氏 (ゲノム生物学と生物進化：遺伝子のダイナミックな成り立ち (仮)) が提案された。他の候補者がある場合は 1 週間以内に郷通子氏に直接 Email をだすことになった。提案がなければ上記案で決定することが承認された。

9. 来年度以降の科研費審査委員選出について (郷通) 関連：報告14

・平成12年度科研費一段審査委員の推薦は、従来通り日本生物物理学会から推薦することに、生物物理研連で決定しているが、平成13年度以降の推薦については、学会でなく研連が推薦母体である。生物物理研連に加わっている関連学会からの推薦希望があれば考慮する方向で生物物理研連では検討している。生物物理研連と物理研連とのあいだで、科研費審査委員を互いに推薦しあうことは、学術と研究者の交流を深める上で重要であるとの提案がなされた。まずは運営委員会で方針を議論する必要があることが示された。

・物理研連から、生物物理研連に科研費審査委員の推薦をしてもらい、生物物理研連からも、物理研連に科研費審査委員を推薦させて貰うことを要望として出し、生物物理研連と物理研連との間で話し合いをしてもらうように動くことを決定した。郷通子研連委員が、郷信広研連委員長に、松本会長が物理学会長に、日本生物物理学会の意向を伝えることが承認された。

10. 第3回東アジア生物物理学会議(2000年5月韓国慶州)について

(郷通) 資料：議10

・実働のためのプログラム委員は、郷信広氏、柳田敏雄氏、松本元氏、郷通子氏、川戸佳氏、永山国昭氏、桐野豊氏、月原富武氏、藤吉好則氏の9名で構成されていることが報告され、さらに七田芳則氏の1名を加わってもらいたいことが提案された。

・実働のためのプログラム委員長は郷通子次期会長が行うことになった。

11. 国際シンポジウム援助について (市川)

長岡技術科学大学の城所俊一氏より、奈良で開催される国際シンポジウム「第4回 けいはんな分子生物物理国際会議」(世話人 鳥越秀峰氏、城所俊一氏)について、5万円の援助依頼があり、審議の結果、援助が了承された。

連絡事項： (松本)

次回の運営委員会は学会会場において、10月3日12時から旧運営委員会を、10月5日12時から新運営委員会を行う。